

# 技術情報カード

No.24

平成13年4月



●●●●●  
技術情報カード No.24  
平成13年4月

徳島県立農林水産総合技術センター  
森林林業研究所

〒770-0045  
徳島市南庄町5丁目69  
TEL 088-632-4237  
FAX 088-632-6447



## ヤマブシタケの人工栽培

### はじめに

ヤマブシタケは、中国や日本に広く分布している食用キノコの一つです。老人のあごひげに似た真っ白い針がたくさん垂れ下がった、おもしろい形をしたキノコで、大きさは5～10cmくらい、中には15cm以上に達する大きなものもあります。色は純白ですが、しだいに淡い黄色から茶色に変色してきます。キノコの形が、山伏が着る鈴懸衣の胸の部分にある丸い飾りに似ていることからヤマブシタケの名前が付いています。

ヤマブシタケの薬効については、静岡大学農学部により研究がなされています。それによると、がん効く「 $\beta$ -D-グルカン」という成分を非常に多く含んでいることやアルツハイマー型痴呆症に効果があるとされる「ヘリセノンD」や「エリナシンC」という物質が含まれていることがわかりました。さらに、ヤマブシタケはその生体恒常効果により、がん、痴呆症以外にも感染症、循環器、消化器、内分泌などに様々な効果が期待されています。

また、ヤマブシタケは、優秀な食用キノコで天ぷらや炊き込みご飯、茶碗蒸し、お吸い物などに使用すると非常においしいキノコです。

今回、このヤマブシタケの人工栽培化について検討を行いました。その結果、比較的簡単に栽培できることがわかりましたのでその内容について紹介します。

### ヤマブシタケの栽培法

ブナシメジやヒラタケの栽培に準じます。ヤマブシタケは、発生温度が15℃以下の低い温度が適しています。そのため、空調施設を用いたオガ屑栽培がよいと思われます。培養容器は、口径52mm、容量800～850ccのブナシメジなどの栽培ビンがよいでしょう。

#### 1 培地の調製

オガ屑の樹種は、シイタケ菌床栽培で使用されている広葉樹であれば使用可能です。粒度は、ザラメとかキノコチップとよばれている大きいものではなく、鋸屑程度のものが適しています。栄養材は、コメヌカやフスマを用います。配合割合は、容積比でオガ屑10に対して栄養材2が標準です。コメヌカ単独、フスマ単独、コメヌカとフスマの混合で栽培試験をした結果、オガ屑10に対してコメヌカ1、フスマ1としたコメヌカとフスマの

混合培地が最も収量が多く1ビンあたり70g、次いでフスマ単独の1ビン当たり60g、コメヌカ単独の25gとなりました。コメヌカやフスマの他にもコーンブランやスーパーブランなども利用可能と思われます。

## 2 殺菌・接種

常圧殺菌と高圧殺菌、どちらでもかまいません。常圧殺菌の場合は培地内温度が100℃に達してから最低3時間は、この温度を持続させます。高圧殺菌の場合は、培地内温度が121℃に達してから20分間この温度を持続させます。

殺菌終了後、培地が常温になったのを確認して種菌を接種します。接種量は、15cc程度あれば十分です。

## 3 培養

培養期間は、系統（品種）や培養温度によって異なることが考えられますが、今回の試験では、培養温度を21℃、培養期間を25日間としました。

## 4 発生

培養を初めてから25日後に、一部のビンで生長した菌糸がビンのふたを持ち上げる現象が見られました。そこで、培養開始25日目に全てのビンのふたを取り外して発生操作にかけました。写真1は、培養開始25日目にキャップを取り除いた状況です。

発生温度は、13℃としました。写真2は、発生温度を17℃とした時のキノコの状況です。このように温度が高いとヤマブシタケの特徴である針が形成されず、サンゴのような奇形となるようです。写真3は、発生操作開始から14日目の状況です。収穫の適期となります。発生温度を13℃とした場合、収穫できるのは、発生操作開始から20日前後でしょう。収穫せずに放置しておくと、キノコの色が白色から黄色に変色します。商品性から考えて、白色の時期に収穫するのが良いと思われます。

系統（品種）のみの試験結果です。培養期間や発生温度などは、系統により異なることが予想されます。そのため、今後、新しい系統が手に入り次第順次、栽培試験を行う予定にしています。

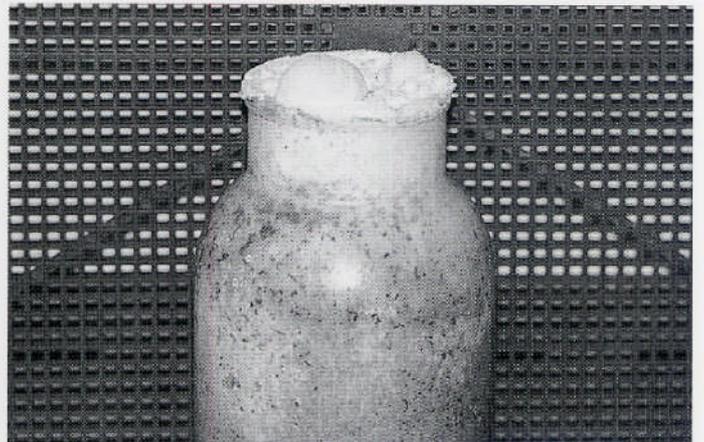


写真1 培養開始25日目  
(発生操作開始直後)

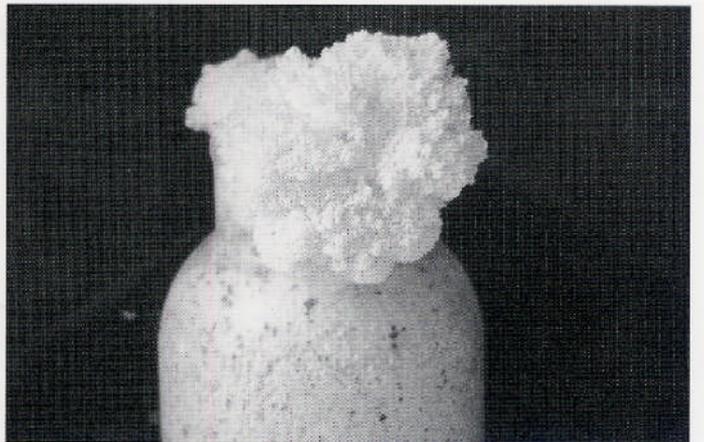


写真2 高温障害による奇形

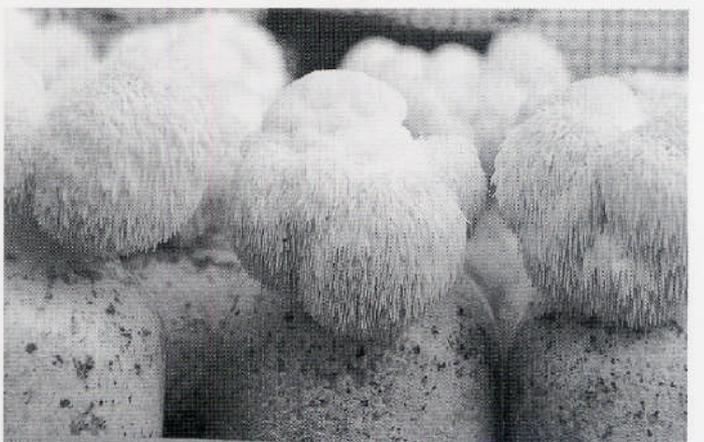


写真3 収穫適期のヤマブシタケ

## おわりに

以上、薬用キノコとしてその効果が期待されるヤマブシタケの栽培法について、現在森林林業研究所で行っている研究内容を紹介しました。今回は、1

### ◆内容に関するお問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術センター  
森林林業研究所 森林生産担当 阿部 正範  
TEL 088-632-4237 FAX 088-632-6447